

令和 8 年度

東京都立武蔵丘高等学校 学校経営計画

東京都立武蔵丘高等学校
校長 西島 宏和

【教育目標】 個性を伸ばし、社会に貢献する人を育てる

【スクール・ミッション】

「明朗性、自主性、社会性」を教育理念に、学習活動の充実から自学自習の定着を図ることで着実な進路実現へと導き、一貫した規律ある指導、生徒が創りつないでゆく伝統行事や絆を深める特色ある教育活動を通し、個性を伸ばし、社会に貢献できる力を育みます。

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

将来を見据えた目標を自ら定め、最後まで妥協することなく努力を継続し、その目標を実現できる人を育てます。

また、生涯にわたって主体的に学び続けるとともに、心と身体の健康を維持し、積極的に社会に貢献できる人を育てます。

(2) カリキュラム・ポリシー

数学、英語で習熟度別授業を実施、学力に応じた指導を行い、基礎学力の確実な定着を図ります。

2 年次で文系、理系の科目選択を導入し、興味・関心を高め、3 年次では、第一進路希望を実現すべく、必修選択講座と自由選択講座をバランス良く設置し、幅広い学力と受験への対応力を育成します。

「自学自習ガイダンス」の実施と、「自学自習定着週間」の設定により、取組状況を振り返り、自学自習の習慣を生徒に定着させます。

(3) アドミッション・ポリシー

自身の個性や適性を見出し、自学自習する態度を培って学力の向上を図り、第一希望の進路実現を叶えることのできる生徒を育成します。

「規律ある自由」を体現し、自らが時と場所、場合に応じた態度・行動や服装等の身だしなみがとれるような生徒を育成します。

学習活動だけでなく部活動・学校行事・美化活動等にも積極的に取り組み、社会に貢献する能力を身に付けることのできる生徒を育てます。

1 学習指導

【中期目標】大学進学等に対応できる学力を生徒に育むため、常に授業改善に取り組むとともに、自学自習の習慣を生徒に定着させる。

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業展開及び観点別学習状況の評価等について、教科会で進行管理を行うとともに、教員相互の授業参観、生徒による授業評価等を通じて、授業力の向上を図る。

(2) 生徒が情報端末機器等を活用して自ら計画的に学習を進められるよう、「自学自習ガイダンス」

- を実施するとともに、「自学自習定着週間」を設定して、取組み状況を把握していく。
- (3) 自学自習の成果を生徒自身が実感できるよう、朝学習や小テストの実施等に取り組む。
 - (4) 生徒の理科や数学に対する学習意欲を高め、理数系大学をはじめ、農学部、薬学部、看護系、栄養系大学等への進学者の増加を図る。
 - (5) 自ら課題を発見し解決する力や他者と協働し新たな価値を創造する力を育成するために探究的な授業に取り組む。
 - (6) グローバル人材育成に向けて、英語学習の充実を図るとともに英語検定などの外部検定試験の受験に積極的に取り組む。

【今年度の重点】

- 【重点Ⅰ】授業規律の確保及び生徒の授業への集中力を高めるため、チャイム始業・チャイム終業を徹底する。
- 【重点Ⅱ】学習指導と学習評価の一体化を推進するため、定例の教科会（月1回）を実施する。
- 【重点Ⅲ】基礎・基本の一層の定着を図るため、朝学習や小テスト、授業の導入等を活用し、生徒に既習事項を確認する。
- 【重点Ⅳ】生徒の自学自習時間を増加させるため、一人一台端末を活用し、計画的に予習・復習を進めるよう指導するとともに、図書館の活用、放課後等の学習環境をより一層充実する。
- 【重点Ⅴ】長期休業中の講習の充実と参加生徒数の増加を図るため、「夏期講習集中期間」を設定し、講習と部活動の住み分けを図る。
- 【重点Ⅵ】理科・数学の学習に対する意欲を高めるため、理科における実験・実習や数学の習熟度別授業等のより一層の充実を図る。
- 【重点Ⅶ】グローバル人材の育成を目指し、習熟度別授業の実施等英語教育を充実するとともに、英語検定などの外部検定試験の受験を促進し、受験対策を行う。
- 【重点Ⅷ】都立A I等の生成A Iの授業等での活用について研究を推進する。

【今年度の指標】

- ① 大学入学共通テストにおける各教科・科目等の校内平均点：同試験の全国平均点
- ② 教員相互の授業観察（1人あたり年2回以上）実施率：100%
- ③ 夏期及び冬期講習等の開講講座合計数と参加生徒の延べ人数：40講座、2500名以上
- ④ 1・2年生の自学自習時間（平日1日あたり）：1年生 70分以上、2年生 80分以上
- ⑤ 英語検定2級合格者120名以上
- ⑥ 自学自習を定着させるための自学自習ガイダンスの実施：各学年ごとに年3回以上

2 進路指導

- 【中期目標】生徒が自らの将来を見据えた進路目標を定め、最後まで妥協することなく努力を継続し、その目標の実現が図れるよう、年間を見通した計画的な進路指導を実施する。
- (1) 進路指導部が中核となって他の校務分掌、各学年や各教科会との連携・協力体制を強化する。
 - (2) 組織的な進路指導体制のもとで、3年間を見通した系統的なキャリア教育を実施する。

- (3) 大学等の入試制度の多様化・複雑化に伴い、生徒が自らの強みを生かして、第一志望の進路を実現できるよう、丁寧できめ細かな進路指導を実施する。
- (4) 年内入試への対応を組織的に取り組む体制を構築する。

【今年度の重点】

- 【重点Ⅰ】生徒の将来を見据えた、質の高い進路指導を実現するため、模擬試験の分析や個々の学習状況、卒業生の進学決定状況等の関係を詳細に分析して、面接指導や出願指導に生かす。
- 【重点Ⅱ】大学入試制度の多様化・複雑化に対応するため、学習支援クラウドサービスを導入する。
- 【重点Ⅲ】生徒が高い志を維持できるよう、第一志望届の提出や、大学入学共通テストの積極的な受験を促す。
- 【重点Ⅳ】生徒の第一志望校合格を強力に支援するため、予備校と連携した大学入試対策講座（校内予備校）の拡大・充実を図る。

【今年度の指標】

- ① いわゆる準難関校以上（国公立大学＋早慶上理＋GMARCH＋成成明学独國武＋4工大＋3女子大）の現役合格者数：140名以上
- ② 大学入学共通テスト出願者数：250名以上
- ③ 3年生の進路決定率：95%以上

3 生活指導

【中期目標】「品格と規律ある自由」をスローガンに、生徒自らが時と場所、場合に応じた態度・行動や服装等の身だしなみがとれるよう指導するとともに、行事や委員会活動を通して社会に貢献する力を培う。

- (1) 生活指導重点5項目（あいさつの励行、遅刻しない、身だしなみを整える、自転車のマナーを守る、部活動と学習の両立を図る）を徹底するため、生活指導部を中心に全校体制で取り組む。
- (2) 全教職員でいじめ・体罰に関して、生徒が声をあげられる環境づくりを進め、教職員対象の研修を実施し、すべての生徒に安全・安心な学校生活を保障する。
- (3) 「SNS 武蔵丘ルール」を生徒に定着させるとともに、家庭内のルール作りを指導助言する。
- (4) 読書活動や外部講師による講演会等を通じて、生徒の向上心、チャレンジ精神、豊かな感性を育む。

【今年度の重点】

- 【重点Ⅰ】遅刻指導、身だしなみ指導、携帯電話の使用ルール等をはじめ、生活指導全般について、生徒の不公平感を解消するため、本校の統一した基準で、定期的・組織的に指導する。
- 【重点Ⅱ】いじめの未然防止や早期認知に努め、組織的な対応が図れるよう、企画調整課会や職員会議で、生徒情報を共有する。また、生徒に対しSOSの出し方に関する教育を推進する。
- 【重点Ⅲ】生活指導部の指導により、生徒会が中心となって「SNS 武蔵丘ルール」を定着させる。また、各家庭内のルール作りを推進する。
- 【重点Ⅳ】自然災害から身を守り、被災しても乗り切る能力や他社や地域の安全を支える能力を身に付

けるため、地域と連携した防災訓練及び避難所設営・運営訓練を実施する。

【重点Ⅴ】自転車乗車時のヘルメット着用を促進する。

【今年度の指標】

- ① 全学年のクラスにおいて1クラス1日あたりの遅刻者数：平均1.00名以下
- ② (学校評価)生徒対象「服装や身だしなみについて十分な指導がされている」に対する肯定的な意見：75%以上
- ③ (学校評価)生徒対象「本校ではいじめ防止の対策がとられている」に対する肯定的な意見：85%以上
- ④ (学校評価)生徒対象「本校のSNSルールを知っている(守っている)」に対する肯定的な意見：90%以上

4 特別活動・部活動

【中期目標】学校行事や部活動の一層の活性化を図る。

- (1) ホームルーム活動や生徒会活動を充実させるとともに、行事の実行委員会が企画・運営の中心となり、生徒が達成感を得られる体育祭・武高祭・合唱祭を実施する。
- (2) 学習と部活動や学校行事等の両立を進め、達成感と集団への帰属意識を高める。
- (3) 仮校舎への移転に伴い学校行事の運営方法、部活動の活動場所の確保について検討を行う。

【今年度の重点】

【重点Ⅰ】クラブ協議会を中心に、各部活動ごとの実態に即し、本校の部活動のあり方について改めて見つめなおすとともに、生徒自ら学習活動と部活動の両立に向けた方策を立て、実現できるようにする。

【重点Ⅱ】学校行事については、改築工事を見据えて、令和8年度以降の運営方法を考慮しながら内容を検討し実施する。

【今年度の指標】

- ① (学校評価)生徒対象「体育祭、武高祭では充実感や達成感を感じた」に対する肯定的な意見：90%以上
- ② (学校評価)生徒対象「本校は部活動と勉強の両立を指導している」に対する肯定的な意見：80%以上

5 健康づくり

【中期目標】校内の環境美化、生徒の心身の健康づくりの強化を図る。

- (1) 《保健指導》スクールカウンセラーや各関係機関との連携を強化、SOSの出し方に関する教育を推進、生徒の健康の保持増進等の健康教育に努め、自らが生涯にわたり健康な生活を送るための実践ができる生徒の育成を図る。
- (2) 《体力向上》使用できる施設を活用し、体育の授業や部活動を通して生徒の体力向上を図る。
- (3) 《美化指導》感染症の防止及び学習にふさわしい清潔かつ快適な環境づくりに向け、総務・保健

部が中心となり、全校体制で美化活動に取り組むとともに、その成果を積極的に発信する。

【今年度の重点】

【重点Ⅰ】日頃の清掃やごみの持ち帰り等、校内の環境美化活動に、生徒・教員がしっかり取り組みます。また生徒会、各種委員会等が中心となり、感染症対策の徹底を図る。

【重点Ⅱ】欠席等が続く生徒については、速やかに保護者に連絡し家庭との連携が図れるよう、クラス担任と授業担当者の連携を一層強化する。

【重点Ⅲ】スクールカウンセラーによる1年生全員面接や特別支援教育心理士の巡回相談等を活用し、支援を必要とする生徒の発見及びケアを丁寧に行うとともに、教育相談研修等を通じて、本校の教育相談機能をより一層充実させる。

【重点Ⅳ】生徒にストレス度テスト等を実施し、その結果の有効活用を図る。さらに、生徒対象講演会等を実施し、自他の生命を尊重する態度の育成、SOSの出し方や健康に関する知識と実践力の向上を図る。

【今年度の指標】

- ① (学校評価)生徒対象「生徒は校内の環境美化活動に取り組んでいる」に対する肯定的な意見：70%以上
- ② 教育相談、発達障害、特別支援教育、アレルギー対応等に関わる教職員研修会の実施回数：年4回
- ③ SOSの出し方に関する講演等生徒対象講演会等の実施回数：年3回
- ④ (学校評価)生徒対象「SCについて生徒に対し十分にアナウンスされている」に対する肯定的な意見：70%以上

6 広報募集活動

【中期目標】本校を第一希望とし、学ぶ意欲と向上心にあふれる受検生の増加を目指す。

- (1) 学校説明会等で、随所に生徒の活躍の場面を設定し、本校生徒の良さが参加者に直接伝わるように内容を工夫する。
- (2) 公式ホームページや学校案内パンフレット等のより一層の充実を図り、本校の教育活動を積極的に外部に発信する。
- (3) 公開講座、青少年育成上鷲宮地区委員会への参加等により地域との連携を進め、地域に貢献できる魅力ある学校づくりを行う。

【今年度の重点】

【重点Ⅰ】令和8年度入学者選抜において、本校が第一希望である受検生を安定的に獲得するため、総務・保健部が中心となり、全教職員が協力して募集対策を進める。

【重点Ⅱ】学校行事、部活動、日常の学校生活の様子がわかるよう、公式ホームページ等の各コンテンツの更新を積極的に行う。

【重点Ⅲ】これまでの募集対策の成果と課題をまとめ、今年度の募集対策に活かす。

【重点Ⅳ】本校生徒が積極的に地域交流行事に参加することを通じて、地域との連携・信頼を強化していく。

【今年度の指標】

- ① 学校説明会等への中学生・保護者の参加者数：1500名以上
- ② 授業公開への参加者：300名以上
- ③ 入学選抜の倍率：推薦に基づく選抜：2.00倍、学力検査に基づく選抜：1.40倍
- ④ 公開講座の実施：2講座以上

7 学校経営・組織体制

【中期目標】生徒・保護者・地域の信頼に応えるため、常に教育内容の改善・充実に取り組むとともに、その成果を積極的に情報発信していく。

- (1) 経営企画室の積極的な経営参画を推進し、経営企画室職員と教員の連携強化を図る。
- (2) 本校の教育活動の充実に図るため、武陵会（PTA）・同窓会との連携をより一層強化する。
- (3) 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取り組みを推進する。
- (4) 生徒への連絡、校内における手続、保護者への情報提供など学校のDX化等を推進し、職員の手取り時間を増やす。

【今年度の重点】

【重点Ⅰ】生徒1人1台の情報端末機器の活用を組織的に推進する。

【重点Ⅱ】経営企画室の職員が常に経営参画の意識をもち、教育職員との連携協力を深める。

【重点Ⅲ】生徒、保護者、都民の信頼に応えるため、体罰、個人情報の紛失、入学選抜事故等をはじめとする教職員のサービス事故ゼロとする。

【重点Ⅳ】教職員の在校時間の適切な把握や年5回の学校閉庁日の設定、教員ごとの定時退庁日の設定を通じて、メンタルケアのさらなる充実し、時間外在校時間が月45時間以内なるよう長時間労働の改善を含めたライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

【重点Ⅴ】部活動指導員などの外部人材を活用し、部活動の適切な運用や教職員の負担軽減など部活動改革を推進する。また、部活動以外においても必要に応じて外部人材を活用し教員の負担軽減を図る。

【重点Ⅵ】本校の校舎改築計画に基づき、仮校舎への移転や新校舎の建設工事円滑に進むよう、校内の体制づくりに取り組む。

【今年度の指標】

- ① (学校評価)生徒対象「本校に入学して良かったと思う」に対する肯定的な意見：85%以上
- ② (学校評価)生徒対象「本校では先生と生徒の人間関係は良好である」に対する肯定的な意見
：85%以上
- ③ (学校評価)保護者対象「本校に入学させてよかったと思う」に対する肯定的な意見
：85%以上
- ④ 勤務時間外の在校時間が月45時間超の教員の延べ人数：200人以内